

事業報告附属明細書

「パレスチナ有機」

事業名	パレスチナ有機	国・地域	パレスチナ・ヨルダン川西岸地区 ジェニン県ザバブデ市																												
活動内容詳細	<p>(ア) 有機大麦・小麦の栽培、製品作成指導 ザバブデ農業組合を中心とした 23 名の裨益者が、現地農業技師の指導の下、約 60 ドノム（6ヘクタール）の有機農場において、有機栽培の実践研修を継続した。</p> <p>大麦・小麦だけでなく、野菜、豆類、ハーブ等も栽培しており、多様性の保全に配慮した有機農業を実践している。第 2 年次においては、大麦（1,633kg）、小麦（2,223kg）を収穫し、一部を製粉加工・販売、野菜、豆類、ハーブ類に関しても 33 種類の作物を販売し合計 NIS52,570（約 158 万円）の利益を得た。</p> <p>大麦・小麦製粉加工品販売実績</p> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th></th> <th>販売量 (kg)</th> <th>売上高 (NIS)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>大麦粉</td> <td>115.2</td> <td>320</td> </tr> <tr> <td>小麦粉(白)</td> <td>673</td> <td>2,163</td> </tr> <tr> <td>小麦粉(全粒粉)</td> <td>566</td> <td>1,715</td> </tr> <tr> <td>ふすま(ブラン)</td> <td>347</td> <td>491</td> </tr> <tr> <td colspan="2" style="text-align: center;">売上高総計 (NIS)</td> <td>NIS4,689</td> </tr> </tbody> </table> <p>大麦・小麦、野菜やハーブの売上げ実績</p> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th>販売先</th> <th>売上高 (NIS)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>個人向け販売</td> <td>33,190</td> </tr> <tr> <td>野菜卸売業者</td> <td>6,168</td> </tr> <tr> <td>フェアトレード団体</td> <td>13,212</td> </tr> <tr> <td>売上高総計 (NIS)</td> <td>NIS52,570</td> </tr> </tbody> </table> <p>また、良質で低価格な苗を安定的に生産する為、提携団体の農業系 NGO の PARC (Palestine Agricultural Relief Committee) の協力の下、ワークショップや実技指導を行った。このワークショップには、裨益者だけでなく、農業技師の研修生も参加し養苗に関する実務研修を行った。</p>				販売量 (kg)	売上高 (NIS)	大麦粉	115.2	320	小麦粉(白)	673	2,163	小麦粉(全粒粉)	566	1,715	ふすま(ブラン)	347	491	売上高総計 (NIS)		NIS4,689	販売先	売上高 (NIS)	個人向け販売	33,190	野菜卸売業者	6,168	フェアトレード団体	13,212	売上高総計 (NIS)	NIS52,570
	販売量 (kg)	売上高 (NIS)																													
大麦粉	115.2	320																													
小麦粉(白)	673	2,163																													
小麦粉(全粒粉)	566	1,715																													
ふすま(ブラン)	347	491																													
売上高総計 (NIS)		NIS4,689																													
販売先	売上高 (NIS)																														
個人向け販売	33,190																														
野菜卸売業者	6,168																														
フェアトレード団体	13,212																														
売上高総計 (NIS)	NIS52,570																														

有機認証については、現地認証団体の COAP (Company of Organic Agriculture in Palestine) を通じて認証手続きを開始して、これまでに計 4 回のワークショップ（1. 有機農業、2. 有機認証、3. 有機害虫対策、4. コンポスト作成）を開催し、裨益者グループに対して、有機農業に対する理解を深めた。同団体より 2014 年 12 月に転換期の認定を受けており、2015 年 12 月には、正式に有機認証の認定を取得する予定である。



大麦の収穫の様子



育苗のワークショップの様子。



有機認証取得の為の検査を受ける様子。  
COAP（現地認証団体）より派遣された農業技師（右から 2 番目）による調査。



ベツレヘムのマーケットにて販売されている小麦。

#### （イ）家庭有機農業（パーマカルチャー農法（PC 農法））の導入

20 世帯に菜園を設置しており、現地農業技師の指導の下、地域の環境や季節に応じて野菜やハーブの栽培を継続して取り組んでいる。現地農業技師は、定期的に裨益者を訪問して、作物の状態の確認や、生産性を上げる為の技術指導、灌漑や追肥等のタイミングなど細かに農業技術指導を行っている。収穫された野菜は、協力団体である The National Fair Trade Non-Profit Corporation “ADEL”の店舗や同団体が毎週ラマツラ市で開催されているバザーにて販売している他、裨益者自身もザバブデ市内の小売店に売り込み販売もしている。本報告期間においては、7,084NIS（約 21 万円）の売上げがあった。



現地フェアトレード団体（左）が裨益者の畑を訪問し、畑や野菜の状態を確認している。



現地農業技師（左）が畝の作り方について裨益者（中央女性4名）に指導しているところ。

（ウ）女性を対象とした加工食品政策技術指導

有機栽培の収穫物については、20名の女性グループが、加工食品として商品化することで収入創出につなげる活動に取り組んでおり、西岸域内外の協力団体との連携を通じて、商品の販路開拓を目指している。本事業期間においては、11種類の商品を企画・販売し、8,244NIS(約25万円)の売上げを記録した。

加工食品販売実績

	売上個数	売上高 (NIS)
ハーブ入り麦茶	138	1,816
クッキー(大麦)	293	1,758
タイムスパイス(通常タイプ)	7	56
タイムスパイス(スパイシー)	171	1,368
ホットペッパー(パウダー)	32	192
ホットペッパー(粗挽き)	27	166
ドライタイム	163	1,048
ドライタイム(バルク/kg)	32.1	1,605
ドライホットペッパー	30	195
ドライホットペッパー(バルク/kg)	0.54	40
売上高総計 (NIS)		NIS8,244



大麦クッキーを作る女性達。



フードエンジニア（右男性）によるハーブティーを作成するワークショップ。

（エ）農地の有効利用を目的とした植樹

土地の有効利用を目的として、当地での栽培に適したオリーブ、ブドウ、核果等の苗木を 45 世帯（約 264 人）に計 1704 本の植樹を行った。配布に当たっては、ザバブデ市役所、PARC、ザバブデ農業組合の協力を得て、裨益者を選定、配布、植樹の指導を行った。



木の植え方について現地農業系 NGO の農業技師が裨益者に説明をしている様子。



苗木配布の様子。

植樹用、苗木配布リスト（45 世帯、計 1,704 本を配布）

樹木の種類	オリーブ	核果	いちじく	りんご	ぶどう	シトラス
本数	563	622	74	126	217	102

「ケニアにおける水・衛生環境に配慮した総合村落開発支援」

<b>事業名</b>	ケニアにおける水・衛生環境に配慮した総合村落開発支援	<b>国・地域</b>	ケニア共和国・カカメガ郡
<b>活動内容詳細</b>	<p><b>① エコサントイレ建設</b></p> <p>1) エコサントイレのビルダー養成                  2014年1月に日本から建築専門家（江崎貴洋氏）を招聘し、約2週間のエコサンビルダー養成研修を実施した。研修を受けた32名のうち十分なエコサントイレ建設技術を習得した16名をエコサントイレビルダーとして認定した。</p> <p>2) エコサントイレ建設                  エコサントイレを2つの小学校及び1つの中学校に合計28基建設し、1,839名が利用を開始した。教員・クラス代表学生の77名がエコサントイレ及び有機農業に関する講習会を受講した。建設後には使用モニタリングを行い、各施設で適切に使用されていることを確認している。また、学校でのトイレ不足によって、トイレ建設の需要は非常に高く今後も建設を予定している。</p> <p>3) デモンストレーションファームの設置                  エコサン肥料や尿の施肥効果を周知するためのデモファームを事業地内の大通り沿いに5箇所設置した。事業地内の農家がエコサン肥料を施しメイズの播種を行うなど管理を行っている。</p> <p><b>② 植林と改良かまど建設</b></p> <p>1) 植林活動                  2014年4月、約600世帯及び学校や教会等の公共施設へ合計16,000本の薪木用苗木・果樹（マンゴー、アボカド、パパイヤ等）・有用樹（モリンガ）を配布し、植林を行った。また、郡の森林局や地区の政府組織から講師を招き、森林保護や植林に関するワークショップを行った。さらに2015年1月には公共施設での植林モニタリングを行った。</p> <p>2) 改良かまどのビルダー養成                  2014年1月に日本から建築専門家（江崎貴洋氏）を招聘し、改良かまど養成研修を実施した。研修を受けた32名のうち十分な改良かまど建設技術を習得した6名を改良かまどビルダーとして認定した。</p> <p>3) 改良かまど建設                  燃料効率の高い改良かまどを学校、教会などの公共施設に4基建設した。使用モニタリ</p>		

ングを行い、各施設で改良かまどが適切に使用されていることを確認した。学生を中心とした約1,000名に給食が提供されている。モデル基を見学した住民からは、自宅に改良かまどを建設したいとの希望が寄せられている。今後、個人宅用の改良かまどのモデル基を製作し、希望宅に裨益者負担で改良かまどを建設していく予定にしている。

#### 4) かまど委員会の設立

各家庭への改良かまどの普及を目的とした「改良かまど委員会」（男性10名、女性16名）を設立した。

### ③ 井戸修繕・パイプライン建設による上水供給

#### 1) 井戸委員会の再編

既存委員11名で運営されていたが、新しい女性の委員を2名選出した。

#### 2) 現状の確認

既存の井戸管理委員会と話し合いをし、現状の井戸管理システムの問題点の確認、及び、新しい井戸管理システムの策定を行った。また、井戸建設会社のDavis&Shritliff社と現場視察を行い、設備の点検、及び、技術的な問題点の確認を実施した。

#### 2) 計画表の作成

上記の情報をもとに、持続的な井戸管理システムを再設計するための計画表を作成した。尚、既存の井戸委員会との話し合いの中で、既存の井戸の問題が技術的なものだけでなく井戸管理委員会の管理能力不足というソフト面を含むということが浮き彫りとなったため、委員会の再編成、管理能力の向上も同時に進める必要があることを確認している。

### ④ 収入創出活動

#### 1) 農畜産業普及委員会の設立

収入創出、加工品の開発及び販売を目的とした「農畜産業普及委員会」（男性12名、女性8名）を設立し、今後の活動を協議した。

### ⑤ 女性の地位向上活動

#### 1) 女性の地位向上委員会の設立

女性のエンパワーメントを目的とした「女性の地位向上委員会」（男性4名、女性16名）を設立した。委員会メンバーは各エリアから2名が選出され、女性16名、男性4

	<p>名で構成されている。</p> <p>2) 女性の地位向上委員会を対象としたワークショップの実施 女性のエンパワメントを専門とする地元の講師を招き、委員会メンバー20名を対象にワークショップを実施した。ワークショップは、委員会メンバーの女性のエンパワメントに関する知識の向上とファシリテーション能力の向上を目的とし、最終的には、委員会メンバーが各々のエリアで、女性のエンパワメントに関するワークショップの講師となることを目的としている。</p>
--	--

「アフガニスタン難民支援」

事業名	アフガン難民支援フェーズ2	国・地域	イラン・イスラム共和国テヘラン州 レイ市、ラザヴィー・ホラーサーン州マシヤッド市						
活動内容詳細	<p>①職業訓練プログラム 532名が職業訓練コースを受講し、459名がコースを卒業した。コース卒業生うち121名に聞き取り調査を行ったところ、60名がアフガニスタン難民コミュニティや学校、語学などの私立教育施設、アフガニスタン難民向け現地/国際NGOなどでスキルを活かして活動している。また、そのうち21名がアフガニスタン難民の雇用が認められる施設や団体で講師やパートタイムとして勤務し、収入の創出を実現している。</p>								
	コース名	コース参加者数			コース卒業生数			コース卒業率	
		合計	女性	男性	合計	女性	男性		
	PCコース	ICDL	15	4	11	15	4	11	100%
		ICDL	8	8	0	8	8	0	100%
		ウェブデザイン基礎	10	5	5	7	3	4	70%
		ウェブデザイン基礎	13	6	7	9	5	4	69%
		ウェブデザイン上級	13	7	6	7	5	2	54%
		ネットワーク基礎	7	2	5	7	2	5	100%
		ネットワーク基礎	4	0	4	4	0	4	100%
		ネットワーク基礎	12	4	8	11	4	7	92%
		ネットワーク上級	22	6	16	11	2	9	50%
		キャド	18	9	9	18	9	9	50%
	3Dマックス	16	9	7	7	4	3	44%	
	英語コース	ビジネス英語	10	6	4	7	5	2	70%
		英語教師養成	8	6	2	8	6	2	100%
		英語講師養成	11	10	1	10	9	1	91%
		翻訳	32	28	4	23	20	3	72%
		翻訳	15	13	2	7	7	0	47%
	医療コース	準看護師	20	20	0	19	19	0	95%

教育コース	小学校教師	22	22	0	22	22	0	95%
出版コース	グラフィックデザイン プロシユアデザイン	20	18	2	20	18	2	100%
	グラフィックデザイン 上級	14	10	4	14	10	4	100%
	グラフィックデザイン 基礎	14	12	2	14	12	2	100%
	グラフィックデザイン 上級	13	11	2	13	11	2	100%
	映像広告基礎	10	6	4	5	3	2	50%
	映像広告上級	13	7	6	5	3	2	38%
	ライティング理論	7	7	0	6	6	0	86%
	ライティング理論	10	8	2	10	8	2	100%
	ライティング実践	6	6	0	6	6	0	86%
	ライティング実践	8	6	2	8	6	2	100%
	ライティング理論	9	9	0	8	8	0	89%
	ライティング理論	7	5	2	6	5	1	86%
	ライティング実践	7	7	0	6	6	0	86%
	ライティング実践	8	7	1	8	7	1	100%
ビジネスコース	会計基礎	11	8	3	10	8	2	91%
	会計上級	11	8	3	10	8	2	91%
	会計基礎	26	21	5	19	16	3	73%
	会計上級	18	15	3	17	14	3	94%
	ビジネス会話および 交渉	17	10	7	15	9	6	88%
	ビジネス会話および 交渉	32	18	14	29	16	13	91%
	起業	13	13	0	13	13	0	100%
	アドミンアシスタント	17	14	3	17	14	3	100%
合計		532	387	145	459	341	118	86%



出版コース（グラフィックデザイン上級）のレッスンを  
実施する講師（中央）と受講生。



出版コース（映像広告）の講師がコース受講希望者に  
コース説明会を実施する様子。

## ②インターン研修

実務研修プログラムでは計 25 名が研修に参加し、そのうち 2 名はアフガニスタンに帰還した。1 名は

アフガニスタン現地の企業に就職し、もう 1 名については第 3 期より職業訓練校のカブール業務執行代理人として採用した。また、7 名がアフガニスタン難民支援を行っている現地 NGO に講師やパートタイムとして勤務している。さらに、2 名に関しては、研修終了後大学へ進学した。3 名のインターン生については、第 3 期よりフェロー（有給インターン生）へ昇格し、新しいインターン生の指導、監督にあたりながら職業訓練校の運営補佐に取り組む予定である。実務研修プログラムに参加したインターン生は、プログラムの中で就業スキルを習得しながら向上心を高め、研修後には習得したスキルや知識を地域社会で活かすべくイラン国内の現地/国際 NGO に講師やパートタイムとして勤務したり、帰還しアフガニスタンの現地企業に就職している。



職業訓練センターの受付業務を行うインターン生



インターンミーティングの中でプレゼンテーションを行うインターン生

### ③アフガニスタン国内の関係団体等との協力強化

カブール市やヘラート市のアフガン企業代表者を職業訓練校利用者に紹介し、出版印刷や食品、建築、コンサル、IT、教育機関など異なる産業におけるアフガニスタンでの就職状況に関する情報を提供した。また、本事業では 5 月よりアフガニスタンのカブール市にアフガニスタン人業務執行代理人を配置し、9 月からはヘラート市にアフガニスタン人スタッフを配置した。カブール市およびヘラート市のアフガニスタン人スタッフを通じて、現地の企業や教育、治安、物価などの情報を収集し、帰還を希望するアフガン難民に対して必要な情報を提供するとともに、帰還に関するアドバイスを提供した。

項目	合計	女性	男性
帰還、アフガニスタンでの就職に関するカウンセリング	806 名	373 名	433 名



カブールの教育機関であるゴハルシャド高等教育機関の代表者から教育業界での就職についてアドバイスを  
受ける職業訓練校利用者。



カブールのコンサルティング会社であるシャングローブの代表者からコンサルティング業界での就職についてア  
ドバイスを受ける職業訓練校利用者。

④就職や帰還に関するセミナーの開催

講演内容	回数	参加者数
将来の目標と計画	1	31名
起業のための基礎知識	1	48名
アフガニスタンでの就職活動とカブールでの生活	1	53名
帰還、アフガニスタンでの就職活動、カブールでの生活	1	43名
IT 関連職に関する就職活動情報	1	45名
女性に焦点を当てた帰還、アフガニスタンでの就職活動、カブールでの生活	1	16名
履歴書の書き方、履歴書の添削および個別指導	9	109名
オフィスマナーの基礎知識	3	102名
アフガニスタンの建築業界へ就職するために必要なスキルと経験	2	78名
アフガニスタンの教育業界へ就職するために必要なスキルと経験	2	86名
アフガニスタンのコンサルティング業界へ就職するために必要なスキルと経験	2	74名
アフガニスタンの出版印刷業界へ就職するために必要なスキルと経験	2	106名
アフガニスタンの IT 業界へ就職するために必要なスキルと経験	2	100名
アフガニスタンの食品産業へ就職するために必要なスキルと経験	1	33名
アフガニスタンの教育業界へ就職するために必要なスキルと経験	2	64名
アフガニスタンの治安、経済、教育、生活、物価など	3	166名
UNHCR アフガニスタン難民帰還支援	5	307名
セミナー開催回数・参加者数合計	39	1,461名



セミナー「将来の目標と計画」で、グループ活動に取り組む参加者。



セミナー「女性に焦点を当てた帰還、アフガニスタンでの就職活動、カブールでの生活」の様子

⑤プロシユアによる情報発信

12冊のプロシユアを作成し、およそ2000冊をアフガニスタン難民に配布した。プロシユアは、アフガニスタンへの帰還や就職に関する幅広い有用情報を含んでおり、職業訓練校以外にもテヘラン市内で開催されるアフガニスタン難民支援に関するイベント等で配布した。プロシユアのテーマは下記の通りである。

- 1) 就職のための準備
- 2) インターンシップとは
- 3) 就職に役立つ機関とウェブサイト
- 4) 帰還のための手続きと必要書類
- 5) 就職面接
- 6) 雇用契約書とアフガニスタンの労働法
- 7) カブールについて
- 8) カブールでの生活
- 9) アフガニスタンで役立つ連絡先リスト
- 10) 治安と衛生
- 11) 大学と高等教育機関
- 12) カブールでの娯楽

⑥カウンセリングサービス

職業訓練の受講希望者に対して、グループカウンセリングを実施し、職業訓練校のコースの概要、趣旨、目的を説明し、登録希望者が個々のニーズに即したコースまたは各研修プログラムを選択できるよう支援した。

項目	合計	女性	男性
カウンセリングサービス利用者数	1140名	848名	292名



グループカウンセリングで職業訓練校利用者登録時に



グループカウンセリング後に、職業訓練校利用登録希望者

職業訓練コースに関する説明を行う様子	に対し英語試験を実施する様子。
<p>⑦就職面接会の実施</p> <p>アフガニスタンのカブール市およびヘラート市から7企業を招聘し、イランのホラサーン州マシャッド市およびテヘラン州レイ市にて、アフガニスタン難民を対象とした就職面接会を開催した。就職面接会で13名のアフガニスタンが企業より内定を受け、アフガニスタンへ帰還し就職した。</p>	
	
ヘラート企業シルバスター（出版会社）代表者（右）と面談を行うアフガニスタン難民（左）	カブール企業モンタズホスト（IT会社）代表者（右）と面談を行うアフガニスタン難民（左）

「マラウイにおける感染症総合対策」

事業名	マラウイにおける感染症総合対策 フェーズ2	国・地域	マラウイ共和国リロングウェ県マリ リ地区	
活動内 容詳細	<p>①マラリア対策</p> <p>(a) 蚊帳モニタリング</p>			
	蚊帳普及 率 (%)	蚊帳使用 率 (%) ※1	正しく使用されてい る蚊帳の割合 (%) ※2	良い状態で使用されて いる蚊帳の割合 (%) ※3
	2014年 10月	70%	92%	73%
	<p>※1 保持されている蚊帳のうちで使用されている蚊帳の割合</p> <p>※2 使用されている蚊帳のうちで正しく使用されている蚊帳の割合。正しい形に張られている、夜間に使用されている、蚊帳の下に隙間ができないように張られている、など。</p> <p>※3 使用されている蚊帳のうちで状態が良い（大きな穴があいていない）蚊帳の割合。</p> <p>蚊帳の使用率（保持されている蚊帳のうちで使用されている割合）は92%に上昇したが、これは当会が実施したマラリア予防キャンペーンや巡回診療時の健康教育により、1年間を通じた蚊帳使用の重要性を繰り返し啓発した効果と言える。しかし、<u>事業地全体で正しく蚊帳が使われている割合を計算すると「蚊帳の普及率（70%）×蚊帳の使用率（92%）×正しく使用されている蚊帳の割合（73%）」となり、47%となる。全体としては蚊帳使用の意識向上</u></p>			

は見られるものの、村落内の家庭では蚊帳が傷みやすく、短期間で使用不可能なほど破損してしまうことも多い。その場合、住民が自分で蚊帳を再購入するまでには至らず、蚊帳の普及率が下がってしまう傾向にある。

(b) マラリア一斉検査・治療

熱帯熱マラリアを検知する簡易検査キット及び顕微鏡でのスミア検査を使用して、マラリア陽性・陰性を検査し、マラリア陽性と診断された住民には、現地医療者が抗マラリア薬を処方し、服用方法を説明した後、一回目の投与をその場で行った。

	参加人数（人）	参加率※1	陽性者数（人）	陽性率※2
2014年4月	590	13.6%	397	67.3%
2014年11月	621 ※3	14.3%	216	34.8%

※1 参加率は、ベースライン調査時の全人口（4,332名）を基に算出している。

※2 参加者のうち、簡易検査キット及びスミア検査で陽性反応が出た人数の割合。

※3 無作為抽出で検査を実施した人数。

②住血吸虫症対策

(a) 予防教育活動

小学校での住血吸虫症予防教育（参加者1,500名以上）や巡回診療時の健康教育を実施。

(b) 住血吸虫症の一斉検査、治療

受診者全員に尿検査を実施し、潜血反応が見られた場合は治療薬の投薬を実施。H25年度と比べ、陽性率が約半分に減少している。

	参加者（名）	参加率※1	陽性者（名）	陽性率※2
2013年8月	863	20%	347	40%
2014年5月	628	14.5%	141	22.5%

※1 参加率は、ベースライン調査時に算出した全人口（4,332名）を基に算出している。

※2 参加者のうち、尿検査での潜血反応が見られた人数の割合。

③母子保健活動

(a) 母親学級

毎月2回の母親学級を実施。母親学級では、母子保健委員会を講師として、妊娠・出産に関わる事柄についての講義を実施後、マラウイ政府が推奨する6食品群のバランスに配慮したメニューに基づいて、料理講習会を実施した。

■母親学級の参加者数（H26年度）

4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	合計
32	24	29	30	48	47	50	39	299

(b) 母子保健委員会による妊産婦登録

月に1度、母子保健委員会が各自の担当エリアを回り、新たに妊娠した妊婦の新規登録、及

び登録済の妊婦のフォローアップを実施した。この登録情報から村落内分娩数の推移を測ると、事業開始前の村落内分娩の割合が30%だったのに比べ、H25年度には14%、H26年度には11%と着実に減少していることがわかる。

	登録妊婦数 (名)	出産場所ごとの出産数			村落内分 娩の割合
		病院施設	村落内	病院施設への道中	
事業開始前	-	-	-	-	30%
2013年6月～11月	93名	42名	5名	2名	14%
2014年1月～11月	113名	68名	7名	1名	11%

#### (c) 妊婦健診

毎月1回の村落内妊婦健診を実施。

H26年度	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	合計
受診妊婦数	24	28	24	26	22	29	33	31	217
HTC受診※1	14	20	18	17	20	7	14	18	128
梅毒検査受診※2	5	0	19	12	20	7	12	19	94

※1 HTC : HIV/AIDS Testing and Counseling

※2 梅毒検査は、本来は保健センターで妊婦に対して提供されるべき検査だが、検査キット不足のため、現在保健センターでは提供されていない。

#### ④HIV/AIDSの感染予防対策

毎月1度、村落内でHTCを実施し、H26年度は約600名の受診者があった。新たにHIV陽性が判明したり、要再検査となった参加者には、適切な指導または治療が受けられる最寄の施設を紹介し、適切な処置が受けられるようにカウンセラーが対応を行った。また、HTCにおいては、地元のDJを使って動員をかけ、集まってくる村人に対してHIV/AIDS予防啓発教育活動を実施した。

#### ⑤浅井戸建設による安全な水の確保

##### (a) 浅井戸建設

新規に10基の浅井戸を建設し、1,320名に安全な水へのアクセスを提供した。

##### (b) 井戸管理委員会に対する、井戸修繕・管理講習会

新規に建設した井戸10基において井戸管理委員会を設立し、彼らに対して井戸修繕・管理講習会を実施した。講習会では、井戸部品及び井戸周りの衛生環境改善や、井戸修繕のためのファンドレイジング方法などについて学ぶ座学と、実際に井戸を解体・再組立を行う実践を実施した。

##### (c) 井戸修繕費確保のための有用樹植林

新規に建設した井戸の周辺に、井戸修繕費確保のための有用樹を植林した。

#### ⑥エコサントイレの建設

(a) エコサントイレの建設

事業地において 84 基のエコサントイレ建設を完了し、持続的で衛生的なし尿処理設備と有機肥料の入手手段を提供した。

(b) エコサントイレ使用モニタリング

各セクションでエコサントイレ管理委員会を設立し、定期的なモニタリング・裨益者への指導を実施した。

適切に使用されているエコサントイレの割合	83%
灰がトイレ内に設置され使用されている割合	83%
清潔に使用されているエコサントイレの割合	82%
尿を液肥として利用している割合	22%
便をたい肥として収穫した割合	20%

エコサントイレの使用率は 80%を超えたが、尿を液肥として利用している割合は 22%となった。しかし、これまで全く尿を液肥として利用していなかった農民に対して尿液肥の利用の推進は困難であることから、エコサントイレ所有者のうち 2 割を超える裨益者が尿を液肥として利用していることは成果と言える。尿を積極的に利用している裨益者は、尿液肥による生産性向上を実感しており、親族や友人に口コミで勧めているという話が聞かれた。また、便をたい肥として収穫した割合は 20%となっているが、一つ目の便槽がすでにしまっている世帯も多く、今後、多くの家庭でたい肥の収穫が見込まれる。

⑦栄養改善活動

(a) 6 か月～2 歳児を対象とした乳幼児向けメニューの調理実習

栄養状態が悪く食習慣改善の必要がある乳幼児を抽出し (45 名)、乳幼児向けメニューの調理実習を行った。また、調理実習の 3 か月後に村落栄養委員会によるフォローアップが実施され、食生活習慣において下記のような改善が見られた。また、4 割の家庭において、調理実習で習ったメニューが実践されていることが確認された。

	全体調査時の指標 (2014 年 3 月)	指導必要児に介入後の指標 (2014 年 7 月)
朝食、昼食、夕食のいずれかを抜いている割合	25%	12.5%
朝食にピーナツパウダー入りのお粥を取っている割合 (※1)	-	18%
昼食にタンパク源 (肉/魚/豆/卵のいずれか) を取っている割合	5%	36%
夕食にタンパク源 (肉/魚/豆/卵のいずれか) を取っている割合	13%	41%

※1 全体調査時に、村で入手が容易で栄養価の高いピーナツパウダーを利用している家庭が少なかったことから、

調理実習時にピーナツパウダー粥を朝食として利用するよう指導したため。

#### (b) モリンガの葉の使用モニタリング

第1フェーズ及び第2フェーズ前半にモリンガの植林を行い、現在までに約13,800本のモリンガが植林されたことが確認されている。第2フェーズ後半で、モリンガを所有している世帯に対しモリンガの葉を料理に使用しているかを調査したところ、64.3%の世帯が定期的に使用していると回答した。

#### (c) モリンガビジネスグループ

H25年度に「カニエレレ・モリンガグループ」が設立され、今年度は彼らによってモリンガ製品（モリンガ固形石鹼、モリンガ粉末石鹼、モリンガパウダー）の制作、販売が開始された。

#### ■売上 (MWK) :

4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	合計	週平均
22,550	11,910	4,250	11,400	17,390	22,500	11,000	11,500	112,500	約3,500

#### ⑧巡回診療

毎週1度村落内で巡回診療を実施した。活動には、当会専門家として長谷島医師、幕内看護師が従事した。2014年4月～11月でのべ約4,100名の患者を診察・治療し、疾患状況データを取得した。また、毎回最寄りのチテゼ保健センター、チレカ保健センター、及びリロングウェ県病院から、Medical assistant5名、看護師3名、保健調査員10名、環境衛生監視官4名、検査技師3名の計25名が巡回診療に参加した。このうち、Medical Assistant4名、保健調査員8名、環境衛生監視官2名は固定メンバーとしてほぼ毎回の巡回診療に参加し、長谷島医師、幕内看護師と意見交換を行いながら、繰り返し技術指導を受けることで、医療技術が向上した。参加した保健調査員からは、「保健センターの他の保健調査員よりも知識や医療技術が向上したので、同僚からいろいろと質問されるようになった」という声が聞かれ、当会の事業に参加した保健調査員を通じて、保健センター全体に技術指導の効果が裨益している様子が見られた。事業終了後の事業地での巡回診療継続に関してリロングウェ県病院と協議を行った結果、今後はリロングウェ県病院が毎月1回の頻度で巡回診療を継続することとなった。これにより、事業地周辺の住民の医療施設へのアクセスが改善された。

#### ⑨村落内救急搬送体制の導入

H25年度に救急自転車7台、貸出用自転車40台が事業地に配備され、事業地内の5つのセクションにそれぞれ救急自転車管理委員会が設立された。今年度は、各委員会の活動の定期的なモニタリングを実施した。管理委員会の自立的な運営については、セクション3を除いて貸付用自転車からの定期的な収入の管理、及び救急自転車の修繕が行われ、積立残高もMWK10,000を超えている。また救急自転車自体も、妊婦やマラリア患者の緊急搬送などに使用されている。セクション3においては、救急自転車は住民によく利用されているものの、村長と管理委員会との関係が悪化し、貸付用自転車からの定期的な収入が滞るという課題が

<p>残った。しかし、救急自転車が壊れた際には、村長や村民から資金を募って修繕が行われており、一応自立的に救急自転車の管理が行われていると言える。</p> <p><b>⑩コミュニティセンターの建設</b></p> <p>コミュニティセンター及びコミュニティ菜園の建設を完了した。建設の目的は以下である。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>➤ 事業期間内に立ち上げた住民組織のうち、特に母子保健委員会とモリンガビジネスグループの持続的な活動の基盤とする。</li> <li>➤ リロングウェ県病院によって継続される巡回診療の実施場所とする。</li> <li>➤ コミュニティ菜園で野菜等を栽培し、母親学級の料理教室で使用する他、余剰野菜を販売し、母子保健委員会の活動資金とする。</li> </ul> <p>コミュニティセンターおよび菜園の建設により、母子保健委員会とモリンガビジネスグループの活動場所を確保することができ、両グループ活動の持続性が高まった。母子保健委員会とモリンガビジネスグループは、ザピタ地区の各セクションからメンバーが集まっており、これまで活動場所の確保に苦慮していたため、活動場所が確保できた意義は大きい。</p>
---

### 「アフガニスタン人道支援」

<b>事業名</b>	アフガニスタン人道支援（「アフガニスタン人道支援」：継続）	<b>国・地域</b>	アフガニスタン・イスラム共和国・ヘラート州及びゴール州																																																																								
<b>活動内容詳細</b>	<p>①教育環境整備</p> <p>1) 学校建設</p> <p>表 1. 学校建設前の各校の状況</p> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse; text-align: center;"> <thead> <tr> <th rowspan="2">州</th> <th rowspan="2">学校名</th> <th colspan="2">教室数</th> <th colspan="2">トイレ数</th> <th colspan="2">井戸数</th> <th rowspan="2">生徒数 (男/女)</th> <th rowspan="2">教室あたりの生徒数 (男/女)</th> <th rowspan="2">トイレあたりの生徒数 (男/女)</th> <th rowspan="2">井戸あたりの生徒数 (男/女)</th> </tr> <tr> <th>所有</th> <th>借上</th> <th>所有</th> <th>借上</th> <th>所有</th> <th>借上</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>ヘラート</td> <td>アブ・ジャリル</td> <td>0</td> <td>9</td> <td>0</td> <td>2</td> <td>0</td> <td>1</td> <td>332 (112/210)</td> <td>36.8 (13.5/23.3)</td> <td>166 (61/105)</td> <td>332 (112/210)</td> </tr> <tr> <td>ヘラート</td> <td>シャマン</td> <td>0</td> <td>4</td> <td>0</td> <td>4</td> <td>0</td> <td>1</td> <td>520 (282/238)</td> <td>130 (70.5/59.5)</td> <td>103 (70.5/59.5)</td> <td>520 (282/238)</td> </tr> <tr> <td>ゴール</td> <td>ハズラテ・ベラル</td> <td>0</td> <td>0</td> <td>0</td> <td>4</td> <td>0</td> <td>0</td> <td>349 (256/93)</td> <td>-</td> <td>87 (64/23)</td> <td>-</td> </tr> </tbody> </table> <p>表 2. 学校建設後の各校の状況</p> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse; text-align: center;"> <thead> <tr> <th>州</th> <th>学校名</th> <th>教室数</th> <th>トイレ数</th> <th>井戸数</th> <th>生徒数</th> <th>教室あた</th> <th>トイレあ</th> <th>井戸あた</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td> </td> </tr> </tbody> </table>			州	学校名	教室数		トイレ数		井戸数		生徒数 (男/女)	教室あたりの生徒数 (男/女)	トイレあたりの生徒数 (男/女)	井戸あたりの生徒数 (男/女)	所有	借上	所有	借上	所有	借上	ヘラート	アブ・ジャリル	0	9	0	2	0	1	332 (112/210)	36.8 (13.5/23.3)	166 (61/105)	332 (112/210)	ヘラート	シャマン	0	4	0	4	0	1	520 (282/238)	130 (70.5/59.5)	103 (70.5/59.5)	520 (282/238)	ゴール	ハズラテ・ベラル	0	0	0	4	0	0	349 (256/93)	-	87 (64/23)	-	州	学校名	教室数	トイレ数	井戸数	生徒数	教室あた	トイレあ	井戸あた									
州	学校名	教室数				トイレ数		井戸数		生徒数 (男/女)	教室あたりの生徒数 (男/女)					トイレあたりの生徒数 (男/女)	井戸あたりの生徒数 (男/女)																																																										
		所有	借上	所有	借上	所有	借上																																																																				
ヘラート	アブ・ジャリル	0	9	0	2	0	1	332 (112/210)	36.8 (13.5/23.3)	166 (61/105)	332 (112/210)																																																																
ヘラート	シャマン	0	4	0	4	0	1	520 (282/238)	130 (70.5/59.5)	103 (70.5/59.5)	520 (282/238)																																																																
ゴール	ハズラテ・ベラル	0	0	0	4	0	0	349 (256/93)	-	87 (64/23)	-																																																																
州	学校名	教室数	トイレ数	井戸数	生徒数	教室あた	トイレあ	井戸あた																																																																			

		所 有	借 上	所 有	借 上	所 有	借 上	(男/女)	りの生徒 数 (男/女)	たりの生 徒数 (男/ 女)	りの生徒 数 (男/女)
ヘラート	アブ・ジャリル	8	0	5	0	1	0	624 (322/302)	78 (40.3/37.8)	124.8 (64.4/60.4)	624 (322/302)
ヘラート	シャマン	8	0	5	0	1	0	774 (415/359)	96.8 (51.9/44.9)	154.8 (83/71.8)	774 (415/359)
ゴール	ハズラテ・ベラル	8	0	0※ 1	0	1	0	528 (387/141)	66 (48.4/17.6)	※1	528 (387/141)

※1：ゴール州教育省の責任の下、UNICEFの資金で設置される予定。

ヘラート州及びゴール州の教育局からの要請を受けて3校の校舎建設及びその他施設の設置、敷地整備と学校備品供与を実施した。生徒の受け入れ態勢の不備により他村の学校に通わざるを得なかった700名以上の生徒が、本事業を通して、それぞれが暮らす地区に設置された学校において、安全かつ清潔な環境下で就学することが可能となった。

## 2) 教員研修

### 【理科】

- 1 日目：教授法概論、生物／無生物、同化作用／異化作用
- 2 日目：五感、人体と臓器、病気・抗体反応、救急療法、実験器具の使用方法
- 3 日目：地球、太陽と月、惑星と天文、温度と測定法、物質
- 4 日目：資源、エネルギー、環境、岩石、重力
- 5 日目：運動、速度、磁力、電気

### 【算数】

- 1 日目：数字の種類と定義、加算、減算、乗算、除算
- 2 日目：線と角度
- 3 日目：多角形、分数、仮分数、常分数
- 4 日目：立方体（角柱・円柱・角錐・円錐）
- 5 日目：割合、百分率、比率

### 【実験室】

- 1 - 3 日目：生物学概論、生物の授業で使用する実験器具・薬品の使用方法、実験
- 4 - 6 日目：物理学概論、物理の授業で使用する実験器具の使用方法、実験
- 7 - 9 日目：化学概論、化学の授業で使用する実験器具・薬品の使用方法、実験

理数科教員78名及び実験室教員47名の合計125名に対して基礎的な科学知識を教授法に関する

研修を実施。うち 117 名が研修の前後で実施したアセスメント試験において 20 点以上点数を改善し、研修で実施した内容への高い理解度を示した。



算数教員の研修の様子。様々な教材を用いた教授法を紹介（ヘラート州ヘラート市）



実験室教員の研修の様子。国際社会からの支援により機材はあるものの、使用方法に習熟した教員の不足により、活用されないケースがある（ヘラート州ヘラート市）

## ②女性のエンパワーメント

### 1) 識字教室

表 3. 最終試験の結果

州	村落名	事業開始 フェーズ	クラス 数	レベル (実施済)	レベル (実施中)	理解度 ※1
ヘラート	アブ・ジャリル	4	2	1, 2	3	◎
	シャマン	4	2	1, 2	3	◎
	アハワン	3	2	4, 5	6	◎
	マラダン	3	2	4, 5	6	◎
	ジャヤ	3	2	4, 5	6	◎
	セルナン	3	2	4, 5	6	◎
	ハリファティ	3	2	4, 5	6	◎
	マハリ・アラブハ※2	2	2	1, 2, 3	-	◎
	シャラキ・ムジャヒディン※2	2	1	1, 2, 3	-	◎
	サフィドラワン※2	2	1	1, 2, 3	-	◎
	マハリ・タヒル※2	2	1	1, 2, 3	-	◎
	イマーム・シシュヌール	1	2	4, 5	6	◎
	エシャック・スライマン	1	2	4, 5	6	◎
	ノーヴィン・ソフラ	1	2	3, 4	5, 6	◎

	ラバト・サンギー	1	2	3, 4	5, 6	◎
ゴール	ダリ・カジ1	3	3	4	5, 6	◎
	ダリ・カジ2	4	3	1, 2	3	◎

※1：各クラス終了後の最終試験平均正答率が 80%以上：◎

※2：自主運営教室（教科書、文房具購入代のみ当会が負担）

全ての識字教室で実施した最終試験において、受講生の平均正答率が 80%であり、高い理解度を示した。



識字教室の授業風景（ヘラート州アブ・ジャリル村）



自主運営識字教室の授業風景（ヘラート州マハリ・アラブハ村）

## 2) 刺繍・木工教室

表 4. 各教室の販売状況（受講生一人あたりの利益、米ドル）

教室名※1	~2014/8	2014/9	2014/10	2014/11	2014/12	2015/1	2015/2	2015/3	平均
刺繍教室 1	10.5	7.4	6.2	7.1	7.9	7.5	6.2	8.4	7.7
刺繍教室 2	-	12.1	11.5	8.1	0.6	5.4	6.5	7.5	7.4
木工教室	-	12.3	4.5	7.3	6.1	7.0	3.9	4.9	6.6

※1：各教室 20 名を対象に実施。刺繍教室 1 は第 3 フェーズからの継続教室。第 4 フェーズより刺繍教室 2 及び木工教室を実施。



刺繍教室（ヘラート州アハワン村）



木工教室（ヘラート州エシャック・スライマン村）

### 3) 職業訓練センター

表 5. 受講生数

ターム	IT 基礎 1	IT 基礎 2	IT 応用	英語 1	英語 2	英語 3	会計・マーケティング
1	10	10	7	12	13	12	23
2	11	12	13	12	13	12	28

最終試験を受験した人数を記載。受験した生徒全員が 80%以上の正答率であり、高い理解度を示した。



IT 教室の授業風景（ヘラート州ヘラート市）



英語教室の授業風景（ヘラート州ヘラート市）

### ③収入創出

1) 種や農機具の配布、技術講習会の開催による、農家の知識と技術の向上

・第 4 フェーズ新規対象地として、ヘラート州の 2 村において、女性のための家庭菜園およびサフラン、男性のための小麦、また、ゴール州 1 村において、女性のための家庭菜園、別の 1 村において、男性のためのにんにくと小麦の栽培と指導を実施。各活動の種や球根を農機具とともに配布、農業の専門知識を持つスタッフによる技術講習会を実施し、各村の活動ごとに 2 回ずつ、

適切な育成・栽培方法、剪定や害虫・雑草対策、環境保全型農法に関する指導を行なった。

- ・第3フェーズからの継続対象地であるヘラート州の4村及びゴール州の1村では、定期的なモニタリングを行い、適宜栽培方法や害虫駆除、販売に関するマーケティング指導を行った。

- ・第2フェーズからの継続対象地であるヘラート州の5村では、苗木、家庭菜園、綿花、サフラン、小麦の栽培を継続して実施。第3フェーズからの継続対象地と同様に、定期的なモニタリングを実施し、適宜栽培用法や害虫駆除、販売に対するマーケティング指導を行った。

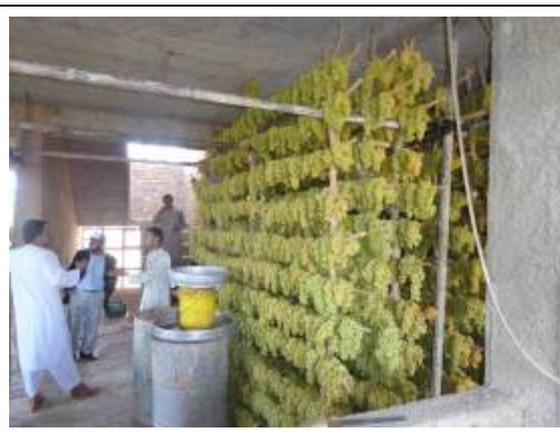
## 2) ぶどうの加工（レーズン）技術の向上と収入創出

- ・ぶどうの産地であるイマーム・シシュ・ヌール村にて、伝統的な加工方法をより衛生的で効果的な加工方法に改善し、市場価値の高いレーズンを生産することで農家の経済状況の改善を目指して、第3フェーズの対象者10名に30名を追加して事業を実施した。

- ・ヘラートの貿易会社である Morwarid Company ヘレーズンを卸すための交渉を進めており、当社の助言により炭酸カリウムを用いない生産方法を一部導入し、共同で加工を行った。



小麦の生育状況のモニタリング (ヘラート州マラダン村)



レーズンの生産 (ヘラート州イマーム・シシュヌール村)

## 「東日本大震災被災者支援」

事業名	東日本大震災被災者支援	国・地域	日本国宮城県、岩手県他
-----	-------------	------	-------------

<p>活動内容 詳細</p>	<p>① 漁業復興支援</p> <p>1. 漁業従事グループの設立と運営体制の整備</p> <p>地域の漁師らからなる有限責任事業組合「Fish Market38 (FM38)」の設立を支援し、前年度までに4名の個人組合員と3団体の賛助組合員によって運営を開始。2014年10月の現地移管までに16回の運営会合が開かれ、当会はそれに際して助言を行う等して運営体制の整備に寄与した。また組合員の能力開発のため、法人運営手続き、漁業運営、食品安全管理、放射能汚染対策、商品マーケティング、税務、会計について、合計30日間の講習を行った。</p> <p>2. 陸上いけす施設の建設と操業手順の整備</p> <p>2015年3月にいけす施設を竣工し、気仙沼市長や現地行政関係者、地域住民の方々、助成を受けたカタルの大使等を招聘の上で、竣工式を行った。また操業手順について、組合員と協議の上で整備を行い、施設の操業を開始した。結果として地域の零細漁師39名が登録し、従来出荷が難しかった沿岸での小規模漁である「小漁」による魚を、同施設を通じて販売可能となった。</p> <p>3. いけす施設の運営支援</p> <p>地域の漁業復興と、漁業・食文化の発信拠点としていけす施設の運営支援を行い、活魚と加工食品の開発、販売により、地域に計4名の雇用と、26名のパート・臨時雇用を生み出した。また、加工食品については計16商品の開発を達成した。月毎の買い上げは770-1000匹となり、最も活発に漁を行う漁師で10-40万円ほどの収入となっている。参加漁師にアンケートを行った結果、全ての漁師が、この施設の建設によって収入向上が可能となったことに満足しているとの結果が出ている。</p> <p>さらにいけす施設を活用して、FM38として地域社会や訪問者に対して漁業文化を伝える活動も開始され、コミュニティイベント等の開催や参加、小学生や被災地ボランティアの受け入れ等により、計8回に渡って、のべ1,500名の参加者に、地域の漁業文化や食文化を伝える活動を行った。</p> <p>2014/6/15 企業ボランティアへの漁業体験イベント実施  2014/7/9 気仙沼市立小原木小学校生徒への漁業文化体験学習実施  2014/8/3 気仙沼市小原木仮設住宅ボランティアへのBBQイベント開催  2014/8/5 気仙沼市の社会科教諭に対する施設案内会の開催  2014/8/10 地域イベント「盆市」の開催による地域住民への施設紹介と地域の漁業・食文化の振興  2014/11/28 小原木小学校2年生対象セミナー開催  2014/12/3 小原木小学校5年生対象セミナー  2014/12/28 地域イベント「年末市」の開催による地域の漁業と食文化の振興</p> <p>4. 活魚と加工食品の販売チャンネルの開拓</p> <p>地域の零細漁師の漁業継続と、漁業・食文化の発信拠点として、いけす施設の持続可能な運営を図るため、現地行政、観光協会、商工会等と連携し、また有名シェフ</p>
--------------------	--

	<p>や中小企業診断士、税理士等の専門家の助言を受けながら、販売チャンネルの開拓を行った。その結果、販売先として27の販社を開拓し、活魚は月770-1000匹、加工食品は月200点以上が販売されるに至った。</p> <p>5. 地域行政やメディアとの協力関係構築</p> <p>地域に根差した持続的な活動のため、地域行政やメディアとの協力関係構築を支援し、気仙沼市とは計3回に渡って地域イベント等において連携、またメディアに対しては40以上の媒体にFM38の活動が掲載され、地域の漁業復興支援施設としての認知度を向上させた。</p> <p>② 子どものスポーツ環境整備と文化活動支援</p> <p>支援企業等と連携の上で、以下の活動を実施板。</p> <p>1. 2014年4月12日(土)、13日(日) 岩手県陸前高田市 「第2回伊藤忠子どもの夢カップ 春季大会」開催(伊藤忠商事株式会社) 参加者: 子ども約150人、保護者約100人</p> <p>2. 2014年7月12日(土) 宮城県名取市 写真家による宮城県農業高校写真部対象の写真教室開催(キヤノンマーケティングジャパン株式会社) 参加者: 高校生約20人</p> <p>3. 2014年9月27日(土)、28日(日) 岩手県陸前高田市 「第3回伊藤忠子どもの夢カップ 秋季大会」開催(伊藤忠商事株式会社) 参加者: 子ども約150人、保護者約100人</p> <p>4. 2014年11月 岩手県大船渡市 大船渡北小学校、日頃市小学校へすべり台を寄贈・設置(株式会社ベネッセコーポレーション) 被益者: 大船渡北小 約180人、日頃市小 約65人</p> <p>5. 2014年11月30日(日) 岩手県大船渡市 パティシエによる親子対象クリスマスケーキづくり教室開催(株式会社シュゼット) 参加者: 子ども15人、保護者15人</p> <p>6. 2014年12月13日(土) 宮城県気仙沼市 写真家による高校3校(気仙沼、気仙沼向洋、元吉響)写真部対象の写真教室開催(キヤノンマーケティングジャパン株式会社) 参加者: 高校生約20人</p> <p>7. 通年 岩手県陸前高田市 少年野球チーム計7チームの県大会出場や遠征費用サポート(伊藤忠商事株式会社) 被益者: 子ども約150人</p>
--	---

「シリア人道支援」

事業名	ザルカ県におけるシリア難民とヨルダン人貧困層に対する物資供与とメンタルヘルス・サポート事業	国・地域	ヨルダン・ハシェミット王国ザルカ県及びシリア・アラブ共和国
-----	---	------	-------------------------------

**活動内容詳細**

①物資配布  
 ザルカ県に避難しているシリア難民を対象として、文房具、乳幼児用衛生用品および越冬支援物資（マットレス、ブランケット）の配布を行った。また、同じくザルカ県のヨルダン人貧困層に対して食糧品を配布した。配布世帯数は、シリア難民 1,890 世帯（当初目標 1000 世帯）、ヨルダン人貧困層 300 世帯（当初目標 300 世帯）の合計 2,190 世帯である。文房具、衛生用品に関しては脆弱性の高い乳幼児および子供へのニーズを満たし、越冬支援物資配布においては緊急性の高い支援を実施できた。物資の選定にあたっては、事前に実施したアセスメントに従い、ヨルダンでの厳しい避難生活の中でシリア難民が必要としている物資を選定した。物資調達に際しては、地元経済に貢献し、コミュニティ内のシリア難民とヨルダン人との融和を図るという観点から、可能な限り地元資本の業者と契約することを優先した。配布実績は以下の通りである。

配布日	配布物	対象者	配布地域	対象世帯数
2014年4月27日	子ども向け文房具	シリア難民	ザルカ県	279
4月28日				283
4月29日				275
4月30日				195
5月4日				88
6月15日	乳幼児向け衛生用品	シリア難民	ザルカ県	115
6月16日				143
6月17日				186
6月18日				69
6月19日				32
12月16日	越冬支援物資 (マットレス、ブランケット)	シリア難民	ザルカ県	225
2015年2月24日	食糧バウチャー	ヨルダン人貧困層	ザルカ県	180
2月26日				120
合計				2190

②心理社会的ケアワークショップ及びインフォーマル教育

(a)子ども向け心理社会的ワークショップ

本プログラムは精神科医の桑山紀彦医師によって策定され、描画、クレイモデル、スポーツ、グループ間交流(日帰り旅行)、演劇、演劇発表会から構成されている。2次元による表現である描画から3次元であるクレイモデル、身体表現を伴うスポーツ、参加者同士の協調性を高めるグループ間交流、そして時間軸を導入した総合芸術である演劇へと、段階を踏んで表現の幅を広げていくことによって、参加者に気持ちや感情を自由に表現する機会を提供することを目的としている。ワークショップは、ザルカ市で当会が運営するザルカ支援センター

において、シリア難民及びヨルダン人貧困層の10～14才の子どもを対象に、1セッション1.5時間、週2回、約3ヶ月を1タームとして、合計3タームを実施した。参加者数の合計は180名(シリア人114名、ヨルダン人66名)で、目標値である180名を達成した(達成率100%)。また、カタール赤新月社(Qatar Red Crescent)との提携の下、ザアタリ・キャンプにおいても、シリア難民の子ども32名を対象に、同ワークショップ実施した。ザアタリ・キャンプでは、1セッション1.5時間、週2回、4ヶ月のスケジュールで1タームのみ実施した。

ワークショップの実施回数及び参加者数は、以下の通りである。

ザルカ支援センター

ターム	月	ワークショップ 実施回数	参加者数				
			実数	シリア人	ヨルダン人	男児	女児
1	2014年2月	7	57	37	20	24	33
	3月	9	60	38	22	25	35
	4月	11	60	38	22	25	35
	5月	6	60	38	22	25	35
2	6月	4	30	19	11	12	18
	7月	6	60	38	22	24	36
	8月	11	60	38	22	24	36
	9月	10	60	38	22	24	36
3	10月	7	60	38	22	24	36
	11月	9	60	38	22	24	36
	12月	4	60	38	22	24	36
	2015年1月	10	60	38	22	24	36
	2月	7	60	38	22	24	36

ザアタリ・キャンプ

ターム	月	ワークショップ 実施回数	参加者数		
			実数	男児	女児
1	2014年8月	1	32	15	17
	9月	7	32	15	17
	10月	6	32	15	17
	11月	11	30	15	15
	12月	10	30	15	15

(b) インフォーマル教育

ザルカ市において実施した、子ども向け心理社会的ワークショップの参加者を対象に、公立学校の補習として英語コースを実施した。ヨルダン教育省との調整の下、公立学校の基準に則してカリキュラムを策定し、アルファベット、挨拶・自己紹介、前置詞、語彙(数字、曜日、季節、家族の呼び方、フルーツ、野菜、動物、料理、天気、職業等)の習得を目指して授業を行った。参加者の能力に応じた授業を提供するため、各タームの開始時にはプレイスメントテストを実施して基礎と上級にクラス分けを行い、タームの最後にはアセスメント・

テストを実施することで、習得度の測定に努めた。ワークショップは3ヶ月を1タームとし、週2回、各1.5時間のスケジュールで実施した。参加者数の合計は180名(シリア人114名、ヨルダン人66名)で、目標値である180名を達成した(達成率100%)。また、保護者向けアンケート及びアセスメント・テストから、インフォーマル英語教育に関して概ね肯定的な評価及び結果を得ることができた。

ワークショップの実施回数及び参加者数は、以下の通りである。

ターム	月	ワークショップ 実施回数	参加者数				
			実数	シリア人	ヨルダン人	男児	女児
1	2014年2月	7	57	37	20	24	33
	3月	9	60	38	22	25	35
	4月	11	60	38	22	25	35
	5月	6	60	38	22	25	35
2	6月	4	30	19	11	12	18
	7月	6	60	38	22	24	36
	8月	11	60	38	22	24	36
	9月	10	60	38	22	24	36
3	10月	7	60	38	22	24	36
	11月	9	60	38	22	24	36
	12月	4	60	38	22	24	36
	2015年1月	10	60	38	22	24	36

#### (c) 女性向け心理社会的ワークショップ

子ども向けプログラム同様、アラブ社会において弱い立場にある女性を対象に、桑山医師監修の作業療法による心理社会的ケアとして、刺繍、編物、料理、石鹸作りのワークショップを実施した。成人を対象とした作業療法においては、小額でも作業が収入に繋がることで継続性が高まることから、全てのコースで講師を招き、参加者が新たな技術を学びながら作業を行う形でワークショップを進めた。作業に没頭することで、心に抱える傷や不安等を一時的にでも忘れると同時に、プログラム・コーディネーターが、参加者同士の体験共有を促すことで、心の傷に向き合うことができるよう環境作りに配慮した。また、シリア難民とヨルダン貧困層の女性が共に作業に励む中、気持ちの共有と支え合いを通じてつながりを築き、コミュニティにおけるシリア難民とヨルダン人の平和的な共生の一助となるよう取組んだ。ワークショップは1.5~2ヶ月を1タームとし、週2回、各1.5時間のスケジュールで実施した。裨益者数の合計は205名(シリア人150名、ヨルダン人55名)で、目標値120名を上回る結果となった(達成率170%)。

ワークショップの実施回数及び参加者数は、以下の通りである。

ターム	実施期間	ワークショップ 実施回数	参加者数							
			総数	シリア人	ヨルダン人	刺繍コース	編み物コース	料理コース	石鹸コース	
1	2014年3月9日-5月14日	48 (各コース12回)	41	32	9	10	10	10	11	
2	5月21日-6月25日	48 (各コース12回)	55	46	9	13	15	14	13	
3	9月7日-10月29日	48 (各コース12回)	47	32	15	11	12	13	11	
4	2015年1月18日-2月25日	48 (各コース12回)	62	40	22	18	18	13	13	
			192	205	150	55	52	55	50	48

### ③カウンセリング

桑山医師監修の下、ヨルダン人精神科医、心理士、ソーシャル・ワーカー、カウンセリング・コーディネーターから成るチームを構成して、本プログラムを実施した。また、東日本被災者支援で心理社会的ケアの経験を積んだ日本人看護師を派遣することで、桑山医師との連携を密にし、よりきめ細かいサービスの提供に取組んだ。裨益者は、ザルカ在住のシリア難民及びヨルダン人貧困層、または当会実施のワークショップにおいて精神科医の診察、個別カウンセリングが必要と判断された者を対象とした。裨益者は、プログラム全体の流れについて説明を受けた後、ソーシャル・ワーカーによる初回のカウンセリングを経て精神科医の診察を受け、精神的な問題が疑われるケースについては、診察結果に基づき、精神科医による投薬治療及び診察の継続、もしくは当会が契約する心理士による個別カウンセリングにて対応した。投薬治療に関しては、薬代の一部を当会が負担することで、裨益者の負担軽減を図った。また、ザルカ市内で活動する他団体、関係機関との連携による裨益者の相互紹介制度を通じて、当会でのケアが必要と判断されたケースについては紹介を受け対応した。本事業期間において、ソーシャル・ワーカー、心理士、精神科医よりカウンセリングを受けたシリア難民及びヨルダン人貧困層は延べ2,273名で、目標値1,200名を大きく上回る結果となった(達成率189%)。裨益者はザルカ全域から広く訪れ、評判を耳にしたシリア難民、ヨルダン人貧困層がザルカ市外からも訪れてくるケースもあった。疾患傾向としては、明確に心的外傷後ストレス障害(PTSD)と診断されるケースは少ないものの、それに付随する症状、不安、不眠、適応障害等のケースが多く確認された。子どもの間では夜尿症の訴えが多く、元々夜尿症の無かった児童が、今回の内戦体験を通じて心に問題を抱えたことにより、症状を引き起こしていると考えられる。夜尿症の訴えについては、幼年期のみならず思春期手前の年齢層においても確認された。尚、今期事業においても、前年に引き続き、WHOの主催により毎月開催されているMental Health and Psycho Social Support (MHPSS)会議に参加し、メンタルヘルス支援を実施している他団体と情報を共有しながら事業を実施した。カウンセリングの裨益者内訳は、以下の通りである。

	患者数 (総数)	内訳		
		ソーシャル ワーカー	心理士	精神科医
2014年2月	224	84	53	87
3月	236	121	40	75
4月	190	101	24	65
5月	183	77	34	72
6月	176	76	32	68
7月	110	49	13	48
8月	187	80	34	73
9月	166	70	21	75
10月	113	37	17	59
11月	235	108	39	88
12月	168	58	33	77
2015年1月	149	54	29	66
2月	136	50	17	69
合計	2,273	965	386	922

「ミャンマー少数民族」

事業名	ミャンマー少数民族人道支援	国・地域	ミャンマー連邦共和国カレン州																										
活動内容詳細	<p>詳細報告期間：平成26年4月～平成26年11月</p> <p>①小規模医療施設の建設および緊急搬送車両・通信機器の導入による医療環境整備 事業対象村5ヶ村において、以下の通り建設・導入を行い、利用者に対する研修等を行った。</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>村名</th> <th>シュエドウ</th> <th>メティヨ</th> <th>コクワ</th> <th>チョウンカウン</th> <th>ミヤインゴン</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>世帯数(人口)</td> <td>152 (913)</td> <td>37 (205)</td> <td>152 (1001)</td> <td>489 (3087)</td> <td>112 (634)</td> </tr> <tr> <td>小規模医療施設</td> <td>サブローラルヘルスセンター(SHC)：1箇所</td> <td>- (シュエドウ村SHCを利用)</td> <td>サービスデリバリーポイント(SDP)：1箇所</td> <td>SHC：1箇所</td> <td>SHC：1箇所</td> </tr> <tr> <td>緊急搬送車両</td> <td>SHCに1台</td> <td>僧院に1台</td> <td>-</td> <td>-</td> <td>-</td> </tr> </tbody> </table>					村名	シュエドウ	メティヨ	コクワ	チョウンカウン	ミヤインゴン	世帯数(人口)	152 (913)	37 (205)	152 (1001)	489 (3087)	112 (634)	小規模医療施設	サブローラルヘルスセンター(SHC)：1箇所	- (シュエドウ村SHCを利用)	サービスデリバリーポイント(SDP)：1箇所	SHC：1箇所	SHC：1箇所	緊急搬送車両	SHCに1台	僧院に1台	-	-	-
村名	シュエドウ	メティヨ	コクワ	チョウンカウン	ミヤインゴン																								
世帯数(人口)	152 (913)	37 (205)	152 (1001)	489 (3087)	112 (634)																								
小規模医療施設	サブローラルヘルスセンター(SHC)：1箇所	- (シュエドウ村SHCを利用)	サービスデリバリーポイント(SDP)：1箇所	SHC：1箇所	SHC：1箇所																								
緊急搬送車両	SHCに1台	僧院に1台	-	-	-																								

通信機器*	SHC に 1 基	管理・運用を行う保健ボランティア宅に 1 基	管理・運用を行う保健ボランティア宅に 1 基	-	-
状況	H26 年 10 月に保健省へ引渡し、医療従事者および対象村住民の利用を開始			建設準備中	

\*村内のほか、患者移送先となるチャインセイチ郡病院に 1 基設置。

②保健ボランティアの育成と住民向けの健康教育・相談による初期対応能力の向上

以下の通り、シュエドウ村、メティヨ村、コクワ村の 3 ヶ村から選出した保健ボランティア向けにチャインセイチ郡病院を会場として研修（全 6 回のうち 3 回）を開催し、受講したボランティアらは各村においてワークショップを開催した。さらに、保健ボランティアらは各村で日々住民向けに健康教育・相談を継続している。

1) 保健ボランティア研修

【第 2 回：感染症】

	参加者数 (参加率)	午前	午後
1 日目 5 月 13 日	21 名 (84.0%)		開会式 試験 グループ・ディスカッション バイタルサイン
2 日目 5 月 14 日	23 名 (92.0%) 午後 1 名早退	マラリア	蚊帳の殺虫剤浸漬 フィラリア
3 日目 5 月 15 日	23 名 (92.0%)	デング熱 ボウフラ対策	結核
4 日目 5 月 16 日	22 名 (88.0%)	急性呼吸器感染症 ハンセン病	肝炎 グループワーク（ワークショップ計画立案）
5 日目 5 月 17 日	22 名 (88.0%)	試験 グループワーク（ワークショップ計画立案） ロールプレイ（ワークショップの練習） 閉会式	

【第 3 回：母子保健 1・妊産婦と新生児の健康】

	参加者数 (参加率)	午前	午後
1 日目 7 月 21 日	19 名 (79.2%)	試験 リプロダクティブ・ヘルス 妊婦健診	安全な分娩 産後ケア 妊娠中と授乳中の栄養
2 日目 7 月 22 日	19 名 (79.2%)	母乳育児 補完食	家族計画 グループワーク（ワークショップ計画立案）

		新生児のケア	
3日目 7月23日	18名 (75.0%)	健康教育	試験 グループワーク (ワークショップ計画立案) ロールプレイ (ワークショップの練習)

【第4回：母子保健2・乳幼児の健康】

	参加者数 (参加率)	午前	午後
1日目 9月11日	18名 (75.0%)	試験 第三回研修復習 小児感染症	小児感染症 予防接種 マラリア、フィラリア復習
2日目 9月12日	18名 (75.0%)	家族計画復習 5歳未満児の栄養 5歳未満児の衛生	学校保健、退学児童の保健 乳幼児の体重測定 (演習) 出生登録・死亡登録
3日目 9月13日	17名 (70.8%)	試験 ケーススタディ グループワーク (ワークショップ計 画立案)	ロールプレイ (ワークショップの練習)

各回において、研修初日と最終日にボランティアの習得状況をみるための試験を行った結果を以下に記す。

【試験結果 (各20点満点)】

	第2回		第3回		第4回	
	1日目	5日目	1日目	3日目	1日目	3日目
最低点	12	12	4	13	9	10
最高点	18	20	16	20	19	20
平均点	14.7	17.9	9.8	17.3	14.1	16.5
正解率	73.5%	89.5%	49.0%	86.5%	70.5%	82.5%

2) 住民向けワークショップ

【第2回研修後】

村名 (ボランティア人数)	シュエドゥ (12名)	メティヨ (5名)	コクワ (8名)
日時・場所	2014年5月26日 9:00~10:30 教会の日曜学校	2014年5月25日 12:45~13:30 小学校	2014年5月24日 16:30~18:40 小学校
ボランティア数	11名	4名	8名
参加者数	53名	53名	70名
内容	デング熱、マラリア、 ITN、TB、フィラリア、 ハンセン病、肝炎、ARI、 DVD上映 (フィラリア、 ハンセン病)	DVD上映 (フィラリ ア)、デング熱、マラ リア、ARI、TB、フィ ラリア	フィラリア、デング熱、 ハンセン病、TB、肝炎、 マラリア、ITN、DVD上映 (ハンセン病)

【第3回研修後】

村名 (ボランティア定数)	シュエドゥ (12名)	メティヨ (4名)	コクワ (8名)
日時・場所	2014年7月27日 12:50~14:30 教会の日曜学校	2014年7月26日 12:30~13:30 小学校	2014年7月25日 9:45~11:00 SDP
ボランティア数	10名	4名	6名
参加者数	35名	20名	65名
内容	家族計画、妊娠・出産の危険な症状、妊婦への健康教育、新生児のケア、産後ケア、母乳育児、妊産婦の栄養	産後ケア、妊娠・出産の危険な症状、母乳育児、家族計画	家族計画、妊娠・出産の危険な症状、妊婦への健康教育、母乳育児

【第4回研修後】

村名 (ボランティア定数)	シュエドゥ (村中心部) (12名)	シュエドゥ (ティモクロ地区) (12名)	メティヨ (4名)	コクワ (8名)
日時・場所	2014年9月28日 13:00~14:20 村中心部の教会	2014年9月29日 11:10~12:20 村郊外の教会	2014年9月14日 14:30~17:00 小学校	2014年9月15日 9:55~12:10 SDP
ボランティア数	8名	5名	4名	5名
参加者数	51名	17名	23名	51名
内容	予防接種、5歳未満児の栄養、家族計画、フィラリア、マラリア	予防接種、家族計画、5歳未満児の栄養・衛生、フィラリア、マラリア	5歳未満児の栄養、予防接種、家族計画、フィラリア	予防接種、5歳未満児の栄養、乳幼児の体重測定、家族計画、フィラリア

【離れ集落等での追加実施】

村名	コクワ村 タポーボッター地区	シュエドゥ村 ティモクロ地区	ダリ村 (シュエドゥ村近郊)
日時・場所	2014年10月22日 10:00~12:20 教会	2014年10月23日 13:40~14:20 ボランティア宅	2014年11月14日 11:00-13:00 僧院
ボランティア数	8名	1名	シュエドゥ6名 メティヨ2名

参加者数	52名	16名(ゴム園所有の屋外労働者)	38名
内容	個人衛生、手洗い、下痢疾患、ORS、家族計画、予防接種、妊婦の健康、5歳未満児の栄養、フィラリア、マラリア、ITN	マラリア、フィラリア、ITN、家族計画	下痢疾患、個人衛生、手洗い、5歳未満児の栄養、妊婦の健康、家族計画、予防接種、フィラリア、マラリア

村名	コクワ村ナバチャ地区	コクワ村ナバチャ地区
日時・場所	2014年11月27日 9:30~10:30 小学校	2014年11月27日 10:35~12:30 小学校
ボランティア数	6名(コクワ村6名)	6名(コクワ村6名)
参加者数	48名(生徒、教師)	17名
内容	衛生教育、手洗い実演など	栄養、予防接種

### 3) 住民向けの健康教育・相談

月に2件以上の活動有無を基準として、保健ボランティアの活動状況を確認した。

村名 (ボランティア数)	シュエドゥ (12名)	メティヨ (4名)	コクワ (8名)	達成度
6月	47件 (未達2名)	40件 (全員達成)	33件 (未達1名)	87.5% (21名/24名達成)
7月	38件 (未達2名)	21件 (全員達成)	25件 (未達1名)	87.5% (21名/24名達成)
8月	26件 (未達3名)	26件 (全員達成)	19件 (未達5名)	66.7% (16名/24名達成)
9月	59件 (未達4名)	14件 (全員達成)	18件 (未達1名)	79.2% (19名/24名達成)
10月	24件 (未達5名)	9件 (未達1名)	65件 (未達1名)	70.8% (17名/24名達成)
11月	58件 (未達3名)	41件 (全員達成)	25件 (未達1名)	83.33% (20名/24名達成)

### ③エコサントイレの技術移転と建設および利用促進による衛生環境改善

平成26年9月7日~21日に日本人建築専門家を派遣し、メティヨ村の小学校において、エコサントイレ建設技術研修を、村内より選出したビルダー10名に対して10日間のプログラムで行った。同小学校に設置するエコサントイレを実際にビルダーらが専門家の指導の下で建設しながら、技術

<p>移転を行った。同研修後、ビルダーらはシュエドウ村のプレスクールにおいて共同建設を行い技術習得の確認を行った後、パイロット事業の対象として村内から選定された、シュエドウ村 11 基、メティヨ村 6 基のモデル設置世帯に対して、トイレを建設した。</p> <p>使用を開始したモデル設置世帯・施設に対して、尿を肥料として利用することの効果を確認できるよう、種子・苗を配布し家庭菜園の造作を支援した。適切な利用がなされているか、当会スタッフがチェックリストを用いたモニタリングを実施した。</p>
--

### 「フィリピン台風」

事業名	フィリピンにおける台風ハイエン被災者支援	国・地域	フィリピン・レイテ州カポオカン町
活動内容 詳細	<p><b>①地元大工への災害に強い木造家屋建築技術の移転</b></p> <p>2013 年度の事業では、バランガイ評議会や村議会との話し合いにおいて、資機材を配布した 12 バランガイだけでなく、全 21 のバランガイにいる大工を対象とし、計 71 名に技術を移転することが出来た。その中に 2014 年度の支援対象 9 バランガイのうち 5 バランガイの大工も 34 名含まれていた。</p> <p>そこで、技術移転のできていない 4 バランガイから大工に参加してもらい、全てのバランガイの大工・住民へ技術移転ができるよう進めることとした。技術移転を行うモデルハウスの建設地は、2014 年度対象の 9 バランガイのうち、最も人口、全損家屋が多く、さらに他のバランガイの住民、地元大工がアクセスしやすく最も技術移転の影響が大きいと予測されるポブラシオンⅡ村とした。</p> <p>技術移転にあたっては、スマトラ島パダン沖地震やハイチ地震でのシェルター支援の経験を有し、2013 年度の事業でもワークショップを行った日本人大工高柳鉄平専門家を日本より派遣し、地元大工 21 名に対し災害に強い木造建築技術を直接指導した。前回の経験を踏まえ、日本の技術を一方的に教えるのではなく、大工と直接話し合いながら、お互いの持つ技術を合わせることで地元の大工にも主体性を与え、かつ、その融合によってもたらされる技術は、地元の大工に受け入れ易い技術となった。</p> <p>さらに、前回の事業で技術移転を受けた大工 1 名にファシリテーターとして参加してもらうことで、より適切に技術移転を行うことができた上、地元大工の能力・やる気の高さも加わり、通常ワークショップには 5 日を要するところわずか 3 日で建築することができた。</p> <p>ワークショップ後の振り返りでは、「筋交い（今回指導した、斜めに木材を入れる技術）」等の技術の使用により、実際に家は強くなっていると思うか、という問いに対し、</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・確実に強度が増している。</li> <li>・これまではお金がなく木材不足だったため「筋交い」はあまりしていなかったが、高柳氏からその重要性を学び、お金がないことを言い訳にせず技術を使い災害に強</li> </ul>		

い家をつくっていききたい。

- ・家族や友人など、周りの人に技術を伝えたい。

という意見が大工から上がっていた。

彼らは本事業にて、資機材配布前後に村をまわり、資機材の適切な使用についてアドバイスをを行う。さらに高齢者のみで生活している世帯など、自分たちでは家の修繕ができない世帯に対しては、代わりに修繕を行う予定である。

また、高柳氏は今回のワークショップにおいて精密なモデルハウスの模型を現地にて作成した。これを活用することで、今後住民らにわかりやすく技術指導を行うことができる。

## ②被災者に対する地元大工からのワークショップ、巡回指導と、社会的弱者への建設用資機材配布

事業の実施にあたり、以前の事業でも提携していた現地 NGO の People's Disaster Risk Reduction Network Inc. (PDRRN) と提携し、ともに、カウンターパートとなるカポオカン町行政、バランガイ評議会（全バランガイ長より構成される議会）それぞれと、調整を行った。さらに当会からはスタッフだけでなく、開発支援専門家として当会の小野了代理事長、小野修専務理事も派遣し、よりの確にニーズに基づいた支援内容となるよう調整に参加した。調整内容は主に以下である。

### (1) 裨益者選定の条件

カポオカン町には 21 のバランガイがあり、そのうち 12 のバランガイは前回当会の支援を受けていたことから、残りの 9 バランガイへ支援することとした。

「全損と判断された家屋」の中で、

- ① 貧困世帯（定期的な収入がない）
- ② 非正規居住者（正確には、住んでいる場所が山奥だったり引っ越してきたりして、被災直後に村議会の確認から漏れていた世帯。バランガイの人数にカウントされていなかったため、政府からもどこからも支援を受けてこなかった。今回支援対象となることで、被災から 1 年以上経過して、ようやく支援を受けることができる。）
- ③ 奥地に居住している
- ④ 台風により被災している

を第一条件とし、そのうち、

- イ) 片親世帯
- ロ) 3 人以上子どもがいる世帯
- ハ) 高齢者やハンディキャップを持つ人がいる世帯
- ニ) 授乳期の女性がいる/妊婦がいる世帯

のいずれかに該当する世帯を選定することとした。

## (2) 裨益者選定、資機材配布

800世帯に資機材を配布した。

各世帯へ配布した資機材は、主に次のとおりである。

	資機材	配布数
1	ココヤシ材 (2×4×10 インチ)	8 本
2	トタン板	10 枚
3	4 インチ釘	3kg
4	3 インチ釘	3kg
5	傘釘	3kg
6	平板	1 枚
7	接着剤	1 缶 (250ml)

また、裨益者選定、配布にあたり、住民によるシェルター委員会を各バラングイにおいて創設した。このシェルター委員会は、配布後のモニタリングやモニタリング後の住民へのミーティングにおいても主体的に活動を行う。住民と話し合いながら裨益者の選定を進めているが、選定から漏れた住民から不平がでることは少ない。その場合、不平を持つ住民からよく話を聞き、裨益者選定の条件を丁寧に説明することで理解を得ている。

## ③小学校校舎の修復

リモン小学校 (生徒数約 240 人) (1 棟 1 教室)、及び、トリバオ小学校 (生徒数約 200 人) (1 棟 3 教室) の校舎の屋根を修復した。また、修復後には、寄付を頂いた株式会社日立物流の現地法人 Manila International Freight Forwarders, Inc. を招いて、両校にて引き渡し式典を行った (2014 年 8 月 26 日、27 日)。

以上

「広報啓発」

事業名	広報啓発事業	国・地域	日本国内
<p>活動内容 詳細</p>	<p><b>会誌</b>            会誌「リリーフ・アクション」46号、2014年6月15日発行 4,500部            会誌「リリーフ・アクション」48号、2014年12月15日発行 4,000部            ニュースレター「リリーフ・アクション」秋号、2014年11月発行 1,200部            ニュースレター「リリーフ・アクション」春号、2015年3月発行 1,200部</p> <p><b>緊急人道支援</b>            「ガザ人道支援開始のお知らせ」2014年8月 発行、1,200部</p> <p><b>インターネットメディア</b>            ウェブサイト 年間閲覧数 170,910 ページビュー（表示された回数）            ブログ 年間更新回数 111回、合計閲覧数 14,688 ページビュー（8/5～計測開始）            フェイスブック 年間訪問者数 8,300人、年間にページを「いいね！」してくれた人数 423人            ツイッター これまでの合計ツイート数（2014年度以前も含む）30,366回            メルマガ 年間発信数 3件            ユーチューブ 年間投稿数 5件、年間視聴合計 19,148回、</p> <p><b>パナソニック NPO サポートファンド for アフリカ</b>            「Twitter &amp; Facebook 情報拡散キャンペーン ～あなたのツイート&amp;いいね！でマラウイに『エコサントイレ』を建てよう！」            ・特設サイト開設、Twitter と Facebook による拡散キャンペーンを実施。            ・キャンペーン期間（6か月間）中に、累計 612 ツイート&amp;いいね！を達成し、マラウイに 2基のエコサントイレを建設した。</p> <p><b>JICA NGO 向けアドバイザー派遣制度</b>            ・ブランディングおよび広報戦略の策定にかかる指導を受けた。            ・団体のキャッチコピーを決定した。</p> <p><b>イベント（開催日、イベント名、成果数値など）</b>  <b>主催イベント</b>            みんなの『美味しい』『楽しい』が支援になる 9日間一つながるマルシェ in 吉祥寺            ○日時：2014年9月22日～9月30日            ○会場：吉祥寺中道通り郵便局隣り</p>		

- 主催：NICCO、吉祥寺千恵蔵さん
- 協力：パナソニック NPO サポートファンド for アフリカ
- 参加者数：約 600 名
- 内容：
  - ・食のセレクトショップ「吉祥寺千恵蔵さん」との共同イベント
  - ・店頭パソコンやキャンペーン紹介パネルを設置し、来場者にその場でキャンペーンに参加いただいた。
  - ・NICCO の活動報告、当会の活動から生まれたオリーブオイルや刺繍製品の販売、吉祥寺千恵蔵さんによる食品の販売等も実施。

#### 共催イベント

「清水寺で世界を語る～共に生きる国際協力～」

- 日時：2014 年 11 月 16 日
- 会場：清水寺

「忘れないでアフガニスタン」キャンペーン 映画上映会&トークセッション

- 日時：11 月 24 日（月・祝）
- 会場：築地本願寺 蓮華殿

#### 後援イベント

第 25 回チャリティ・オークション～芸術家と文化人の作品展～

- 日時：2015 年 3 月 12 日～16 日
- 会場：大丸京都店

第 28 回京都チャリティ・ファンラン

- 日時：2014 年 6 月 1 日
- 会場：宝ヶ池公園

第 4 回チャリティ・ラン京都

- 日時：2014 年 11 月 29 日
- 会場：京都府立 山城総合運動公園 太陽が丘

#### ブース出展イベント

国際活動パネル展

- 日時：2014 年 9 月 25 日～10 月 1 日
- 会場：京都府国際センター府民交流サロン
- 参加者数：404 名（サロンに来館者人数）

○内容：京都府国際センター主催の「国際活動パネル展」に参加。交流サロンの一角にパネルを展示した。

#### グローバルフェスタ Japan2014

○日時：2014年10月4日～10月5日

○会場：日比谷公園

○協力：パナソニック NPO サポートファンド for アフリカ

○参加者数：約400名（ブース訪問者数）

○内容：

・国内最大級の国際協力イベント「グローバルフェスタ Japan2014」にブースを出展。

・パソコンやキャンペーン紹介パネルを設置し、来場者にその場でキャンペーンに参加いただいた。

・NICCOの活動報告や当会の活動から生まれたオリーブオイルや刺繍製品の販売も実施。

※10月5日、グローバルフェスタ内にて対面式活動報告会の実施を予定していたが、台風によりイベント自体が終了されたため中止となった。

#### 駐日アラブ大使夫人の会主催「チャリティバザー」

○日時：2014年5月18日（日）

○会場：東京プリンスホテル

○内容：

・NICCOの活動から生まれたオリーブオイルや刺繍製品の販売を実施。

#### 京都外国語大学 学園祭パネル展示

○2014年11月2日

○内容：パネル展示（マラウイ・フィリピンを中心に）

#### 豊郷町隣保館フェスティバルパネル展

○2014年9月20日

○内容：パネル展示（東日本大震災関連を中心に）

#### マスコミ懇親会

2014年7月22日 原田悠子 メディア懇親会「マラウイ医療支援事業について」

2014年10月9日 松村拓憲 メディア懇親会「ガザ緊急人道支援について」

2014年10月17日 久保祐 メディア懇親会「シリア人道支援について」

2015年1月29日 安田真司 メディア懇親会「アフガニスタン人道支援について」

<p>2015年3月10日 松村拓憲 メディア懇親会「ガザ農家支援について」</p> <p>2015年3月31日 秋本泰孝 メディア懇親会「パレスチナ有機農業支援について」</p> <p><b>プレスリリース</b></p> <p>年間件数 20件</p> <p><b>マスメディア実績</b></p> <p><b>テレビ</b></p> <p>2014年5月25日 仙台放送 「陸上いけす施設『アルフルザ』開所式」 三陸地方の漁業支援</p> <p>6月6日 NHK京都制作「ニュース610 京いちにち」 「針と糸、山崎弥生さん」スタジオコメンテータとして折居事務局長が出演</p> <p>2015年1月28日 NHK首都圏制作「シリア邦人人質事件のNGOの対応」森事業部長がヨルダン事務所とのスカイプミーティングしている様子を放映。</p> <p><b>ラジオ</b></p> <p>2014年9月7日 三条ラジオカフェ JPFアフガニスタンイベント・NICCOアフガニスタン人道支援紹介</p> <p>2015年3月6日 三条ラジオカフェ チャリティ・オークション（後援イベント）</p> <p><b>新聞</b></p> <p>2014年4月1日 三陸新報 「漁業振興に役割 いけす「アルフルザ」完成」 三陸地方の漁業支援</p> <p>2014年4月11日 読売新聞 「比台風支援 NGO 連携 防災 官民協力強化を」フィリピン台風被災者支援</p> <p>2014年4月13日 岩手日報 「球春に全力プレー 陸前高田で少年野球大会」 子どもの夢応援団プロジェクト：伊藤忠子どもの夢カップ</p> <p>2014年4月16日 東海新報 「米崎が2連覇果たす 野球スポ少 伊藤忠子どもの夢カップ」 子どもの夢応援団プロジェクト：伊藤忠子どもの夢カップ</p> <p>2014年5月10日 三陸新報 「新たな流通開拓へ カタール支援のいけす 25日に記念式典」 三陸地方の漁業支援</p> <p>2014年5月10日 河北新報 三陸地方の漁業支援</p> <p>2014年5月26日 河北新報（朝刊） 「水産業の再生後押し カタールから資金援助 いけす施設完成 気仙沼・唐桑」 三陸地方の漁業支援</p> <p>2014年5月27日 三陸新報「漁業復興へいけす整備 唐桑町小田 テープカットで開所祝う」 三陸地方の漁業支援</p> <p>2014年5月30日 三陸新報 三陸地方の漁業支援：特製みそと一夜干し販売</p>
---

2014年5月30日	京都新聞	フィリピン台風被災者支援：江崎専門家活動報告会
2014年5月31日	読売新聞	フィリピン台風被災者支援：江崎専門家活動報告会
2014年6月4日	毎日新聞	フィリピン台風被災者支援：江崎専門家活動報告会
2014年6月7日	京都新聞	京都チャリティ・ファンラン（後援イベント）
2014年6月11日	聖教新聞	「自立を手助けする支援」 小野理事長インタビュー
2014年6月12日	読売新聞（宮城地域面）	「いけす完成、出荷開始」 三陸地方の漁業支援
2014年7月23日	京都新聞	マラウイ：悠子さん活動報告会
2014年8月9日	京都新聞	ガザ支援：支援&募金開始
2014年10月3日	東海新報	子どもの夢カップ：第3回伊藤忠子どもの夢カップ
2014年10月10日	京都新聞	ガザ報告会
2014年10月21日	京都新聞	シリア人道支援報告会
2014年10月21日	毎日新聞	ガザ報告会
2014年11月13日	東海新報	子どもの夢応援団プロジェクト：ベネッセ大船渡小学校支援すべり台寄贈
2014年12月2日	東海新報	子どもの夢応援団プロジェクト：シュゼット大船渡ケーキづくり教室
2014年12月4日	ジャパン・タイムズ	アフガニスタン人道支援
2015年1月30日	毎日新聞京都版	「教育活動継続の仕組みを」 アフガニスタン人道支援報告会
2015年2月5日	日本経済新聞（夕刊）	「台風に負けぬ家 フィリピンに 日本の技 指南通じ交流」 フィリピン台風被災者支援
2015年2月14日	読売新聞	チャリティ・オークション告知（後援イベント）
2015年3月13日	京都新聞	チャリティ・オークション（後援イベント）
2015年3月13日	毎日新聞 京都版	チャリティ・オークション（後援イベント）
<b>講演</b>		
2014年8月24日	森裕介	「トイレから始めるよりよい世界—MDGs達成期限まで500日で何ができるのか」@日本科学未来館 7F 会議室（主催：動く→動かす、協力：日本科学未来館）にて、「マラウイの村でエコサントイレをつくる」
4月12日	工位夏子	大阪大学「未来共生」セミナー『世界の今と未来を考えよう』（主催：大阪大学未来戦略機構第五部門（未来共生イノベーター博士課程プログラム））
6月24日	河合澄子	「世界難民の日」世界同時上映プロジェクト「シリア、踏みにじられた人々と希望」上映会（主催：龍谷大学社会学部（地域コミュニケーション論））

2014年9月11日 折居徳正 シンポジウム「9.11から13年 ～アフガニスタンの教育現場の今を知る～」(主催: ジャパン・プラットフォーム)

2014年11月22日 折居徳正 カフェイベント「平和の木オリーブがつなぐ絆」(主催: 関西 NGO 協議会)

2015年1月30日 原田悠子 「持続可能な社会に向けて～国際社会の目標と私達にできること～」(主催: 環境省 環境研究総合推進費 S-11 持続可能な開発目標とガバナンスに関する総合的研究 (POST2015))

2月28日 原口佑己 国際ボランティア学会第16回大会

2015年3月7日 原口佑己 平成26年度第2回国際協力セミナー「国際協力の現場から見たイスラーム」(主催: JICA 関西)

2015年3月14日 宗貞研 (心理カウンセラー/看護師) 第3回国連防災世界会議「国際 NGO の東北支援談話ナイト～地域とつくるコラボレーション～」@仙台市市民活動サポートセンター (主催: 特定非営利法人 ジャパン・プラットフォーム)

#### 教育セクターからの受け入れ

6月6日 大阪大学国際教育交流センター留学生訪問受け入れ

8月28日 大阪府立福井高等学校 課外授業 生徒受け入れ

11月28日 大阪大学グローバル人間学・実験実習 学生訪問受け入れ

8月 帯広畜産大インターン生2名受け入れ

通年 立命館大インターン生受け入れ 3名受け入れ

#### インターン研修

国内研修 14名

#### 海外派遣

- ・ マラウイ 1名
- ・ ヨルダン 4名
- ・ イラン 3名

#### 国内派遣

- ・ 名取 1名

以上